

2026年3月期 第3四半期

# 決算説明資料

2026年2月13日  
株式会社ワコールホールディングス  
証券コード：3591

皆さま、こんにちは。株式会社ワコールホールディングス 代表取締役 副社長執行役員の宮城晃です。  
それでは、2026年3月期第3四半期決算について、資料に沿ってご報告します。

## 目次

1. 2026年3月期 第3四半期 決算概況	・・・ P.3
2. 2026年3月期 第3四半期 決算概況（セグメント別）	・・・ P.11
3. 財務・株主還元	・・・ P.17
4. 次期中期経営計画策定の進捗	・・・ P.20
5. Appendix	・・・ P.23

本日のアジェンダです。

26年3月期第3四半期決算の概況、セグメント別概況、財務・株主還元、次期中期経営計画策定の進捗についてご説明します。

# 2026年3月期 第3四半期 決算概況

はじめに、26年3月期第3四半期決算について概況をご説明します。

売上収益 <b>1,303億円</b>	前年同期差 (前年同期比) -32億円 (-2.4%)	上期に引き続き、前期の <b>不採算事業の売却影響</b> により減収 国内は(株)ワコールやピーチ・ジョンが堅調に推移するも 海外は米・中・アジアの市況が回復せず、厳しい状況が続く
売上総利益 <b>751億円</b>	前年同期差 (前年同期比) -4億円 (-0.5%)	<b>減収影響で減益</b> も、不採算事業の売却やBravissimo社買収に伴う 小売比率上昇等により売上総利益率は57.6%と前年同期から <b>1.1pt改善</b>
事業利益 <b>31億円</b>	前年同期差 (前年同期比) +16億円 (+110.1%)	海外は米・中・アジアの不振とBravissimo社の火災影響で減益も 国内は(株)ワコールの粗利率の改善や販管費の縮減が奏功し黒字転換 ピーチ・ジョンの収益改善なども寄与し、連結では増益
営業利益 <b>227億円</b>	前年同期差 (前年同期比) +116億円 (+104.0%)	固定資産売却益（新京都ビル、寮・社宅等）が寄与し <b>大幅な増益</b>

4ページです。

26年3月期第3四半期決算のエグゼクティブサマリーです。

上段、売上収益は1,303億円で、前年同期を32億円下回りました。前期から当期にかけて事業ポートフォリオを見直し、不採算事業を売却したことが減収の主因です。国内は中核会社である株式会社ワコールやピーチ・ジョンにおいては販売が堅調に推移しましたが、海外は米国・中国・アジアの市況低迷により厳しい状況が続きました。

2段目、売上総利益は751億円でした。減収を受け、前年同期を4億円下回る着地となりました。一方で、先ほど申し上げた不採算事業の売却や、直営店や自社ECを主力チャネルとして展開するブラビッシモ社の買収に伴い、売上総利益率は前年同期から1.1ポイント改善しました。

3段目、事業利益は31億円で、前年同期を16億円上回りました。海外は、米国、中国、アジアの不振に加え、2025年6月に発生したブラビッシモ社の物流倉庫の火災による損失により減益となりましたが、国内は売上総利益率の改善に加え、前年に実施したワコールのリブランディング費用の反動や人事制度変更による人件費の戻し入れなどの販管費の縮減により黒字転換し、連結ベースでは大幅な増益となりました。

下段、営業利益は事業利益が前年同期を上回ったことに加え、新京都ビルをはじめとする不動産の売却益が寄与し、前年同期を大幅に上回り、227億円となりました。

## 26/3期 3Q実績

(単位：百万円)

	25/3期 3Q		26/3期 3Q			
	実績	構成比・比率	実績	構成比・比率	前年同期比	修正計画進捗率
売上収益	133,534	100.0%	130,344	100.0%	97.6%	75.0%
ワコール事業（国内）	68,764	51.5%	68,472	52.5%	99.6%	77.9%
ワコール事業（海外）	50,001	37.4%	50,004	38.4%	100.0%	71.1%
ピーチ・ジョン事業	7,846	5.9%	8,399	6.4%	107.0%	73.0%
その他	6,923	5.2%	3,469	2.7%	50.1%	84.6%
売上総利益	75,493	56.5%	75,125	57.6%	99.5%	74.2%
販管費	74,009	55.4%	72,007	55.2%	97.3%	70.0%
事業利益	1,484	1.1%	3,118	2.4%	210.1%	—
ワコール事業（国内）	-254	-0.2%	2,647	2.0%	—	—
ワコール事業（海外）	1,541	1.2%	104	0.1%	6.7%	—
ピーチ・ジョン事業	33	0.0%	144	0.1%	436.4%	48.0%
その他	164	0.1%	223	0.2%	136.0%	223.0%
営業利益	11,116	8.3%	22,673	17.4%	204.0%	112.2%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	9,127	6.8%	13,791	10.6%	151.1%	113.0%

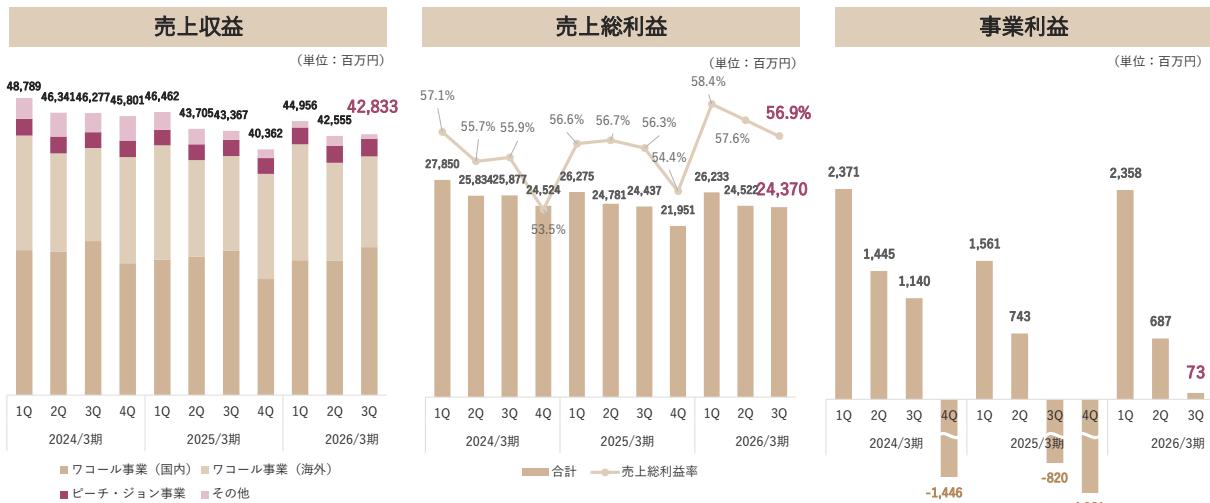
※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

5

5ページです。こちらは第3四半期実績のまとめとなりますので、割愛します。

## 売上収益・売上総利益・事業利益の四半期推移

売上総利益率の改善傾向に加え、国内の販管費縮減等により事業利益は前年同期比で16億円増



6ページです。売上収益、売上総利益、事業利益の四半期ごとの推移です。

不採算事業の売却影響で売上収益は前年同期を下回りましたが、売上総利益率については改善傾向が継続しました。事業利益については、減収影響があったものの、国内の粗利改善と販管費の縮減が寄与し、第3四半期累計では前年同期比で16億円の増益となりました。

## 26/3期 3Q 利益影響項目

(単位：百万円)

	25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	対前年同期		増減理由
			増減額	増減率	
事業利益	1,484	3,118	+1,634	+110.1%	
その他収益	10,806	21,452	+10,646	+98.5%	固定資産売却益およびBravissimo倉庫火災の受取保険金
その他費用	1,174	1,897	+723	+61.6%	Bravissimo倉庫火災の在庫評価損等
営業利益	11,116	22,673	+11,557	+104.0%	
金融収益	1,775	1,796	+21	+1.2%	
金融費用	404	566	+162	+40.1%	
持分法による投資損益	661	-1,787	-2,448	-	関連会社投資減損（タイワコール、ハウスオブローゼ）
税引前利益	13,148	22,116	+8,968	+68.2%	
法人所得税費用	4,157	8,450	+4,293	+103.3%	税引前利益の増加
当期利益	8,991	13,666	+4,675	+52.0%	
非支配持分損益	-136	-125	+11	-	
親会社の所有者に帰属する当期利益	9,127	13,791	+4,664	+51.1%	

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

7

7ページです。こちらは、事業利益から親会社の所有者に帰属する当期利益です。

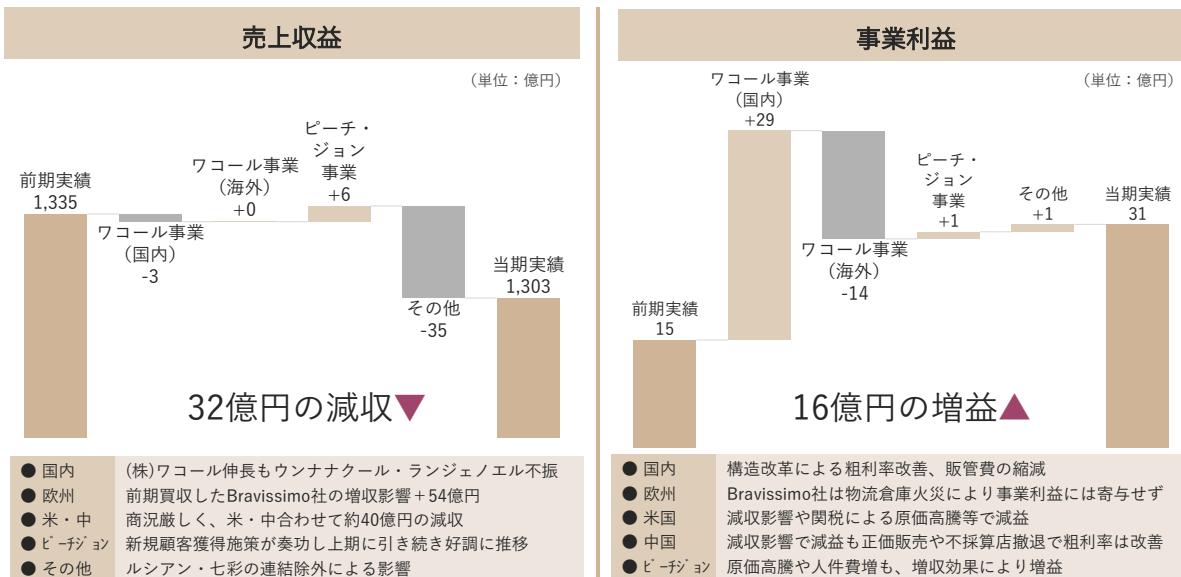
事業利益の下段、その他収益として約215億円を計上しています。こちらには、新京都ビルの固定資産売却益に加え、ブラビッシモ社の物流倉庫火災によって発生した損害に対する保険金約17億円を計上しています。なお、その下段のその他費用約19億円には、物流倉庫火災によって発生した在庫評価損等を計上しています。

事業利益にその他収益、その他費用を加え営業利益は約227億円となりました。

税引前利益は、持分法適用会社であるタイワコールとハウス オブ ローゼの株価下落に伴い関連会社投資の減損を計上した結果、約221億円となりました。

当期利益は、税金費用を差し引き、約138億円でした。

## 26/3期 3Q 売上収益・事業利益の前年同期差



8ページです。売上収益と事業利益の前年同期差をセグメントごとに記載しています。

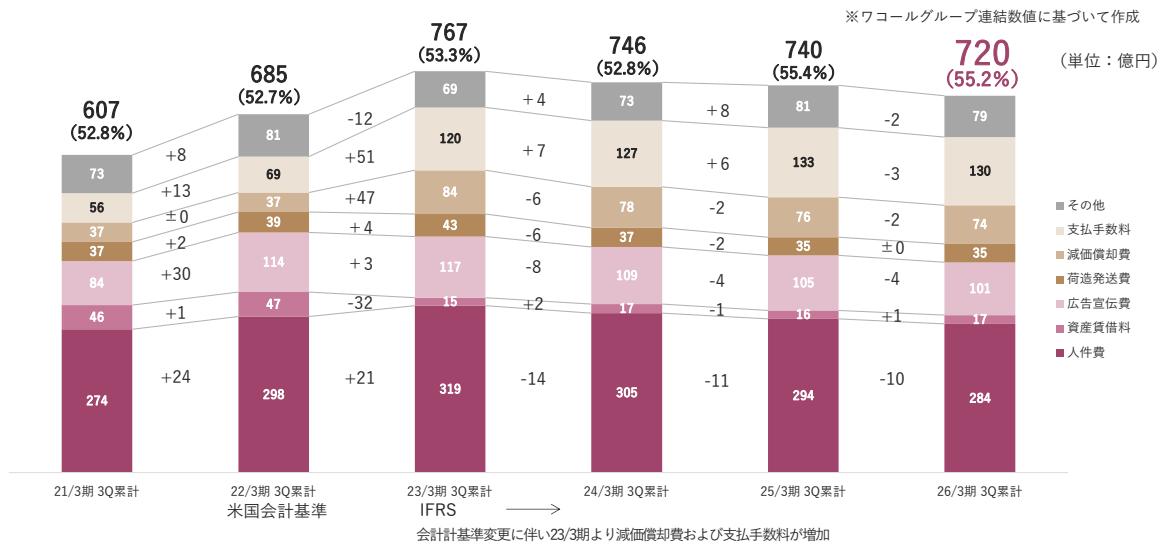
左側の売上収益については、前期までその他セグメントに含まれていた七彩・ルシアンの連結除外による減収影響が大きく、32億の減収で着地しました。そのほかワコール事業国内セグメントにおいては、株式会社ワコールについては前年を超えて推移したものの、ウンナナクール、ランジェノエルなどの販売子会社の減収により前年同期をわずかに下回りました。

ワコール事業海外セグメントは、買収したブラビッシモ社の増収効果と米国、中国、アジアの低迷影響が相殺する結果となり前年同期並み、ピーチ・ジョンは、新規顧客の獲得施策が奏功し、引き続き増収となりました。

右側の事業利益については、ワコール事業国内セグメントにおける売上総利益率の改善と販管費の縮減が寄与し大幅増益の一方、ワコール事業海外セグメントにおいては、米国、中国、アジアの不振により減益となりました。

## 26/3期 3Q 販管費の推移

減収影響により販管費率は前年同期並みで推移したものの、各社コストコントロールが奏功し前年同期から20億円の削減

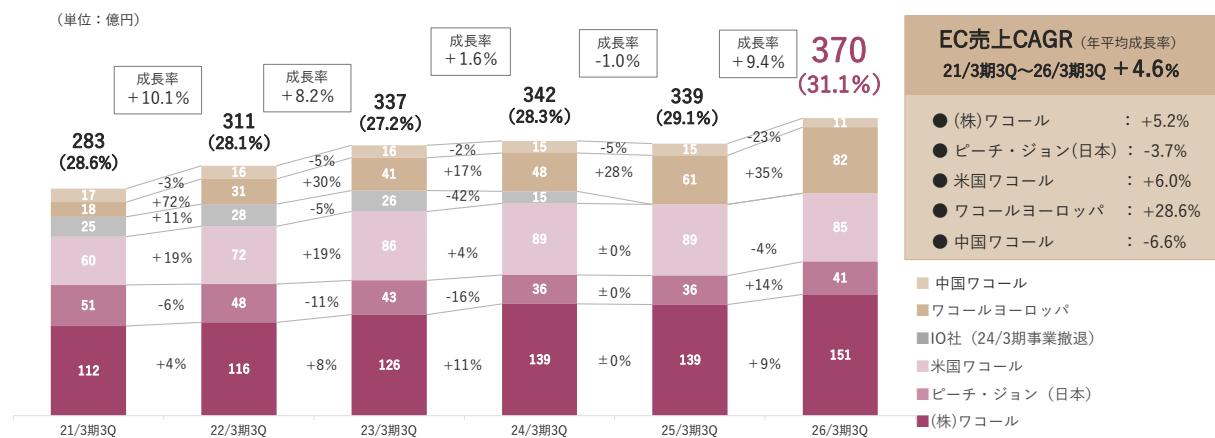


9ページです。販管費の推移となります。第3四半期累計の販管費は720億円でした。ブラビッシモ社の買収により販管費が増加した一方、国内の販管費の縮減、米国、中国などのコストコントロールが奏功し、前年同期から20億円の削減につながりました。

## 26/3期 3Q EC事業の進捗

(株)ワコールのEC売上の拡大と、Bravissimo社の買収が寄与し、  
5社合計のEC比率は前期末以降30%を超える水準で推移

(EC比率：(株)ワコール 23%、ピーチ・ジョン(日本) 52%、米国ワコール 47%、ワコールヨーロッパ 37%、中国ワコール 26%)



中国ワコール

ワコールヨーロッパ

10社 (24/3期事業撤退)

米国ワコール

ピーチ・ジョン (日本)

(株)ワコール

※連結調整前のデータに基づいて作成

※邦貨換算ベース (為替影響含む)

※各決算期のレートを使用 (為替影響含む)

## 2026年3月期 第3四半期 決算概況（セグメント別）

次に、セグメント別の概況をご説明します。

## 【セグメント別】ワコール事業(国内)の概況

売上収益  
**685億円**

前年同期差  
(前年同期比)  
-3億円  
(-0.4%)

「AMPHI」の苦戦を「CW-X」「GOCOCi」などの好調がカバーし、  
(株)ワコールは3Q堅調に推移も、子会社の苦戦が響きわずかに減収

➤ チャネル別  
実店舗：閉店影響・客数減により全体では減収も、既存店では充足率が改善  
EC：自社EC（前年同期比105%）・他社EC（前年同期比111%）と伸長し実店舗をカバー

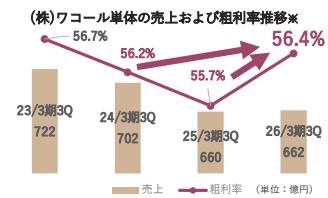
➤ ブランド別  
◎ CW-X、アフォーダブル価格のWing・GOCOCiに加え、高価格のSaluteも伸長  
◎ WACOALは上期まで苦戦するもリブランディング施策の効果発現により3Qから改善傾向  
▲ AMPHI、ナイトウェア、ウンナナクールは閉店影響、既存店売場縮小等で苦戦が続く

事業利益  
**26億円**

前年同期差  
(前年同期比)  
+29億円  
(+)

(株)ワコールの増収に加え、粗利改善と販管費縮減で黒字転換

➤ リバイズで取り組むコスト構造改革の成果により  
粗利率は前期、前々期を上回る水準まで改善  
➤ 前期実施したリブランディング費用の反動や  
アセットライトに伴う減価償却費の減少、  
人事制度の変更による人件費の戻し入れ等の  
影響で販管費が縮減



子会社名	売上収益 (単位: 億円)		事業利益 (単位: 億円)		売上総利益率 (粗利率)		販管費率	
	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差
（株）ワコール ※日本基準	649	+3	24	+24	56.4%	+0.8pt	52.8%	-2.9pt

※ グループ内売上含む、日本基準ベース

12

12ページです。ワコール事業国内についてです。

売上収益は、685億円でした。第3四半期においては、直営店ブランドの「AMPHI」の苦戦をシーダブリュー・エックスやゴコチなどの好調がカバーし、株式会社ワコールは堅調に推移しました。一方、子会社のウンナナクールやランジェノエルの減収が響き、前年を3億円下回る着地となりました。

チャネル別では、ECは引き続き好調に推移しました。実店舗においては、閉店影響や来店客数減少による影響を受けながらも、継続品比率の向上や需要連動生産等の取り組みにより充足率が改善しました。ブランド別では、シーダブリュー・エックスやウイング、ゴコチに加え、高価格帯のサルートも伸長し、中核ブランドのワコールも足元で改善傾向がみられました。

事業利益については26億円と前期の事業赤字から黒字転換し、大きく伸長しました。右側のグラフをご覧ください。国内では、2023年より中計リバイズで掲げるコスト構造改革に取り組んできました。原材料費の高騰や為替の円安進行等外部環境の変化がありながらも、価格改定や生産効率の向上、返品低減などの様々な施策が奏功し、当第3四半期で売上総利益率は前期、前々期を上回りました。また、販管費についても、リブランディング費用の反動に加え、アセットライト化の方針で売却した新京都ビルの減価償却費の減少、人事制度の変更に伴う人件費の戻し入れが発生したこと等が寄与し、事業利益の大幅な改善につながりました。

## 【セグメント別】ワコール事業(国内)のトピックス

「CW-X」の商品ラインを拡充し、リカバリーウェアとプロ向け商品を発売開始  
中核ブランド「WACOAL」は一部施策で効果が発現

### 「CW-X」の商品拡充

#### 拡大するリカバリーウェア市場に再参入

- リカバリーウェア「&RECOVERY」をブランド横断で展開。第1弾として「CW-X」よりトップス、タイツを自社ECと直営店で12月下旬に販売開始
- 初動2週間の売上は前回比117%※1
- 2026年1月中旬より他社EC6サイト、3月より百貨店等44店舗でも販売開始



#### 大谷選手用に開発の「Arm Brace」をプロ向け販売

- 「Arm Brace（アーム ブレース）」は「CW-X」独自のテーピング原理と、大谷選手のフィードバックを融合させ商品化したひじ用サポーター
- 2026年2月よりプロ野球選手およびメジャーリーガー限定で販売を開始



### 「WACOAL」の商品改善施策が進展

#### 重点商品の品番継続体制を構築し、安定供給を実現

- 同一機能商品はデザイン変更後も品番を維持する仕組みを構築
- 最も売上構成比の高いコレクションラインは在庫充足率が改善し、売上機会ロスが一部解消
- 商品レビューの蓄積や安定供給を実現し、コレクションラインのEC売上※2は前年同期比117%と大きく伸長「WACOAL」全体に占めるコレクションラインの割合

コレクションラインの在庫充足率の変化

	25/3期 3Q	26/3期 3Q	前年同期比で6%改善
在庫充足率	66%	72%	



#### 人気の機能ブラのシンプルデザインが好調

- 「重力ケアブラ ノンワイヤー(シンプル)」が計画比102%と堅調に推移
- 市場ニーズをとらえたデザインで、これまで取りきれていた新規の20、30代の顧客を獲得



※1 期間:2021年8月

※2 自社EC・他社EC計/集計期間:2025年8月～2026年1月

13

13ページです。ワコール事業国内のトピックスについてご説明します。国内では、シーダブリュー・エックスの商品拡充および中核ブランドワコールの商品改善に取り組んでいます。

まず左側をご覧ください。国内では、前期末よりコンディショニングウェアのシーダブリュー・エックスの拡販に努めてきましたが、この第3四半期ではさらにラインアップを拡大し、リカバリーウェアおよびプロ向けのアームブレースの販売を開始しました。

リカバリーウェア市場は年々拡大傾向にあり、着ることで疲労回復をサポートできる“ながらケア”的新習慣は消費者の生活に広がりつつあります。そのような状況を背景にリカバリーウェア「アンドリカバー」の展開を開始しました。第一弾として、昨年12月24日に販売した商品は、初動2週間で前回リカバリーウェアを発売した2021年比117%の売上と、好調な滑り出しました。今後は、順次中核ブランドのワコールやナイトウェア等、ほかのブランドからもリカバリーアイテムを発売します。

左側下段をご覧ください。シーダブリュー・エックスでは、メジャーリーグで二刀流の活躍を見せる大谷選手用に開発したひじ用サポーターのアームブレースについて、プロ向け販売をスタートしました。開発のきっかけは、「ひじの内側を守り、調節機能を備えたサポーターを作つてほしい」という大谷選手からのリクエストで、実際に2025年シーズンより着用いただいています。同じ悩みを抱えるほかの選手にも役立てたいという思いで、まずはプロ野球選手、メジャーリーガー限定で販売することを決定しました。

続いて右側に記載の中核ブランドワコールの商品改善施策についてです。昨年リブランディングを実施したワコールでは、重点商品について、カラー・デザインが変わっても品番を維持する体制を構築することで、ECにおける商品レビューの蓄積と在庫の安定供給が可能になりました。結果、最も売上構成比の高いコレクションラインでは、直近秋冬シーズンのEC売上が前年比117%と大きく伸長しました。さらに、機能性ブラの「重力ケアブラ ノンワイヤー」のシンプルデザインが好調に推移しており、課題であった若年層の獲得についても、一定の成果を上げました。

## 【セグメント別】ワコール事業(海外)の概況

 WACOAL HOLDINGS CORP.



### 欧州は前期のBravissimo社買収効果で増収も、米中やアジア各社は苦戦

- 米国：「K字型」消費<sup>※1</sup>の進行により得意先、特に専業ECから仕入抑制を受け苦戦<sup>※2</sup>
  - ※1 高所得者層は消費を増やし、中・低所得者層は購買志向を強めるなど消費行動が二極化する現象
  - ※2 1月に経営破綻した米国百貨店サックスに対する債権には過年度に引当金計上済であり当期へのPL影響は無
- 欧州：Bravissimo社物流倉庫火災<sup>※3</sup>により機会損失が発生し、買収による増収効果は想定を下回る
  - ※3 2025年6月27日当社HP開示済。自社ECは火災発生以降出荷を停止し、9月以降順次再開
- 中国：市況回復の遅れに加え、11月の大型商戦の不振も響き売上は前年同期を下回る  
店舗改装やタレント起用などのブランド価値訴求施策により売上回復を目指す

### 米欧中の主要各社で減益、Bravissimo社は火災により3Q累計で赤字

- 米国：減収影響及び一部関税影響により粗利率、販管費率ともに悪化  
関税対策を実施し、小売価格改定のほか生産拠点の最適化により影響軽減を図る
- 欧州：既存のワコールヨーロッパは粗利率改善も、火災影響によるBravissimo社の損失、  
英国の社会保険料増加・D2C強化に向けた広告宣伝費の投下が影響し減益
- 中国：減益も不採算店舗の撤退や正価販売の推進が奏功し、粗利率は改善傾向

子会社名	売上収益 (単位: 億円)		事業利益 (単位: 億円)		売上総利益率 (粗利率)		販管費率	
	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差	26/3期3Q	前年同期差
ワコールインターナショナル（米国）	172	-24	1	-8	46.1%	-2.8pt	45.6%	+1.1pt
ワコールヨーロッパ（Bravissimo社含む）	221	+47	3	-2	64.2%	+3.9pt	63.0%	+4.7pt
中国ワコール	54	-14	-7	-2	69.2%	+0.8pt	81.6%	+6.4pt

14

14ページです。ワコール事業海外についてです。

売上収益は、500億円と、前年同期並みでした。欧州は前期に買収したブラビッシモ社の影響により伸長しましたが、米国、中国、アジアについては市況の低迷が継続しました。なお、ブラビッシモ社については、2025年6月下旬に発生した物流倉庫火災によって、自社ECにおける出荷を7月、8月の約2か月間にわたって停止し、売上、利益ともに大幅な機会損失が発生しました。

事業利益は1億円と、前年同期を14億円下回りました。米国・中国は減収影響により事業利益ベースでも前年同期を下回ったほか、欧州についても火災影響等により減益となりました。米国では関税対策として価格改定や原価低減施策に取り組んでおり、売上の回復とともに粗利の改善にも努めています。欧州は、ブラビッシモ社の火災影響に加え、社会保険料の増加や広告宣伝費の投下により販管費が増加し、増収するも減益となりました。中国は、売上が低迷する中、不採算店舗の撤退や割引販売の低減により売上総利益率は改善傾向です。

## 【セグメント別】ワコール事業(海外)のトピックス

Bravissimo社は火災後一時的に復調も足元不振、中国は不採算店舗を撤退し収益性の改善を図る

### Bravissimo社物流倉庫火災は影響継続

#### EC再開後の9、10月は復調傾向も在庫不足が発生

- 6月火災発生後、2か月にわたりEC出荷停止し9月に再開
- 再開後EC売上は想定を上回り9月、10月は好調に推移
- 一方在庫不足やアクセス数減少等で11、12月の売上は低調に推移
- 逸失利益分の保険は精査に時間が要し来期以降の計上可能性あり

##### 火災影響の通期着地見込

通期 影響項目	売上機会損失 <逸失利益>		在庫評価損失		保険金収入		合計	
	前回 発表	今回	前回 発表	今回	前回 発表	今回	前回 発表	今回
売上収益	-22億	-16億	—	—	—	—	-22億	-16億
事業利益	-10億	-9億	—	-2億	—	—	-10億	-11億
営業利益	-10億	-9億	-19億	-19億	+29億	+28億	0億	0億

#### 1月に倉庫復旧が完了し今後の在庫不足は解消見込

- 1月17日～21日に臨時倉庫から元倉庫への在庫移転が完了
- 運用体制の再構築は2月末に完了予定
- 以降は安定的な在庫確保が可能

### 中国は採算性の改善と商品力の強化に注力

#### 採算性の改善

##### 2Q～3Qの半年間で不採算店舗14店舗を撤退

- 1Q実績を受け百貨店3、モール8、アウトレット3店舗撤退
- 4Qにおいても追加で15店舗を撤退検討中

#### 店舗改装を実施し、一部店舗は12月単月で+20%伸長

- 店舗イメージを刷新すべく上期中に3店舗を改装済
- 追加で3月までに2店舗、4月以降に16店舗を順次改装予定

#### 商品力の強化

##### 市場ニーズに合うシンプルデザイン×人科研の知見を活かした付加価値商品を展開予定



- 市場ニーズはシンプルデザイン
- 26春夏からはデザイン面での市場ニーズへの対応に加え、人科研の知見を活かした機能性商品を展開予定

15ページです。ワコール事業海外のトピックス、ブラビッシモ社の火災影響と中国の状況についてご説明します。

まず左側、ブラビッシモ社の物流倉庫火災についてです。倉庫火災は2025年6月下旬に発生し、発生以降、約2か月間自社ECにおける出荷を停止しました。自社ECは9月以降順次再開していますが、再開直後は好調に推移していた一方、足元では火災による在庫不足が発生し、若干低迷しています。停止期間中の損害の影響額について表で記載しております。直近影響金額を算定した結果、売上への影響は通期でマイナス16億円、事業利益への影響はマイナス11億円となりました。今回の火災によって発生した機会損失は保険金によって補填される予定ですが、逸失利益の精査には一定の時間を要するため、計上が来期以降になる可能性もあります。また、左側下段に記載の通り、火災が発生した倉庫は1月に完全復旧し、運用体制の再構築についても2月末を目途に完了予定です。

続いて右側をご覧ください。中国ワコールでは、市況悪化が続く中、採算性の改善と商品力の強化に取り組んでいます。まず、採算性の改善として第2四半期から第3四半期の半年間で不採算店舗14店舗を撤退しました。第4四半期においても精査を続け、15店舗について追加撤退を検討中です。また、上期に改装を実施した店舗については単月で売上が20%伸長する等の成果が発現しています。今後はこの事例を横展開すべく、3月までに2店舗、4月以降に16店舗を順次改装する予定です。

また、商品力の強化については、市場ニーズを踏まえたデザイン・機能の商品を新たに開発し、26年春夏シーズンより展開予定です。

## 【セグメント別】ピーチ・ジョン事業の概況とトピックス

WACOAL HOLDINGS CORP.

売上収益

84億円

前年同期差（前年同期比）

+6億円 (+7.0%)

各種施策が奏功し全チャネルで伸長、特に他社ECが好調

➤ 新規顧客獲得のためのコミュニケーション戦略、商品戦略が引き続き奏功

事業利益

1.4億円

前年同期差（前年同期比）

+1億円 (+336.4%)

原価高騰で売上総利益率は悪化も、增收効果でカバーし  
事業利益も大幅に伸長

➤ 賞与増などにより人件費は増加も、売上の伸長により全体の販管費率は改善

子会社名	売上収益 (単位:億円)		事業利益 (単位:億円)		売上総利益率 (粗利)		販管費率	
	26/3期3Q	前年同期 差	26/3期3Q	前年同期 差	26/3期3Q	前年同期 差	26/3期3Q	前年同期 差
ピーチ・ジョン 連結	84	+6	1.4	+1	57.2%	-3.2pt	55.6%	-4.4pt

顧客起点の商品設計で新規層の継続獲得

前期より顧客データ分析を基に、**主要顧客層**のニーズを踏まえた商品開発を強化。それら新商品が支持され、**新規顧客の獲得に成功**

ターゲット層に響くタレント起用で購買意欲を喚起

冬シーズンに森香澄を起用したランジェリーコレクションが好評を博し、新規顧客獲得を後押し



「ナイスバディブラ」  
ミスティブーケ



「盛れるノンワイヤーブラ」「リボンモチーフ」  
フロントホックノンワイヤーブラ



16

16ページです。ピーチ・ジョン事業についてです。

売上収益は、84億円でした。前期から新規顧客獲得強化の方針へ舵を切り、各種の施策を進めた結果、全チャネルが伸長し、前年同期を6億円上回りました。

事業利益は1億4千万円でした。原価高騰の影響や賞与増による人件費増加などの影響がありました  
が、增收効果により、前年同期から大きく改善しました。

続いて右側のトピックスについてです。前期から顧客データ分析を強化し、その結果を踏まえて、主要顧客の共感を得るデザインの新商品およびタレント起用を進めたところ、顧客の購買意欲の喚起に成功し、新規顧客の獲得が進み、売上が好調に推移しています。

## 財務・株主還元

次に、財務・株主還元についてご説明します。

## 財務方針

1. ビジネスマネジメント改革と成長戦略を通じた収益力の改善を最優先課題として取り組むとともに、棚卸資産（在庫）の圧縮や、政策保有株式の縮減、保有不動産の整理を進めることで、資本効率の改善を実現しROE向上を実現
2. 将来成長への投資を優先すると同時に、資本効率の改善に向けて積極的な株主還元を実施



18ページをご覧ください。中計リバイズで掲げている財務戦略の基本方針です。こちらは、2023年11月に発表した内容から変更はありません。

## 財務戦略の進捗

区分	重点戦略	重点施策	25/3期 累計実績	リバイズ 累計実績	リバイズ 累計見込	リバイズ 目標数値	進捗	
財務戦略	アセットライト化・デットの活用	棚卸資産の圧縮	1.9回転	—	2.1回転	2.5回転	構造改革の一環で在庫処分を実施 ※減収影響により回転率を下方修正	
		保有不動産の整理(デットの活用含む)	約190億円	約454億円	約420億円~	500億円	実現性・妥当性を検証し、企業価値向上に寄与しない不動産を整理 ※新京都ビル売却を含む	
		政策保有株式の縮減	約250億円	約293億円	約380億円	300億円	売却合意できた株式から順次売却し、資本効率を改善 ※純資産比率：25/3期 18%、26/3期見込 12%	
	資本政策	配当還元	約110億円	約157億円	約160億円	150億円	連結業績・資産の売却状況を考慮しつつ、安定的な配当を継続	
		自己株式の取得	約270億円	約395億円	約550億円	550億円	自己株式の取得を行い、資本効率の改善を積極的に推進	
25/3期 実績				26/3期 見込	リバイズ 目標数値		進捗	
ROIC		3%	—	6%	6%~7%	資本効率向上を目指し、ROICを指標とした管理体制を構築		
ROE		4%	—	6.5%	7%	資本効率の最適化を推進		

19ページをご覧ください。第3四半期までの財務戦略の進捗を記載しております。

上段記載のアセットライト化については、保有不動産の整理、政策保有株式の縮減について、計画に沿って実施しております。

また、下段のROIC、ROEについては、リバイズでの目標数値をわずかに下回って着地する見込みです。

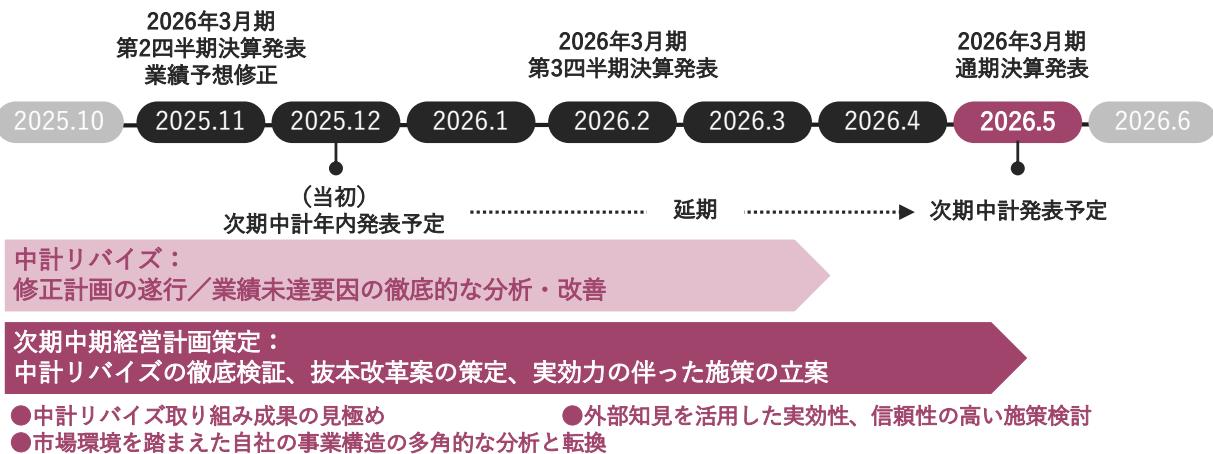
## 次期中期経営計画策定の進捗

20

続きまして、次期中期経営計画策定の進捗についてご説明します。

## 次期中期経営計画の公表延期について（再掲）

連結業績予想の修正に伴い、次期中期経営計画の公表を年内から2026年5月へ延期  
従来の前提に基づく計画では実効性・信頼性の確保が困難と判断

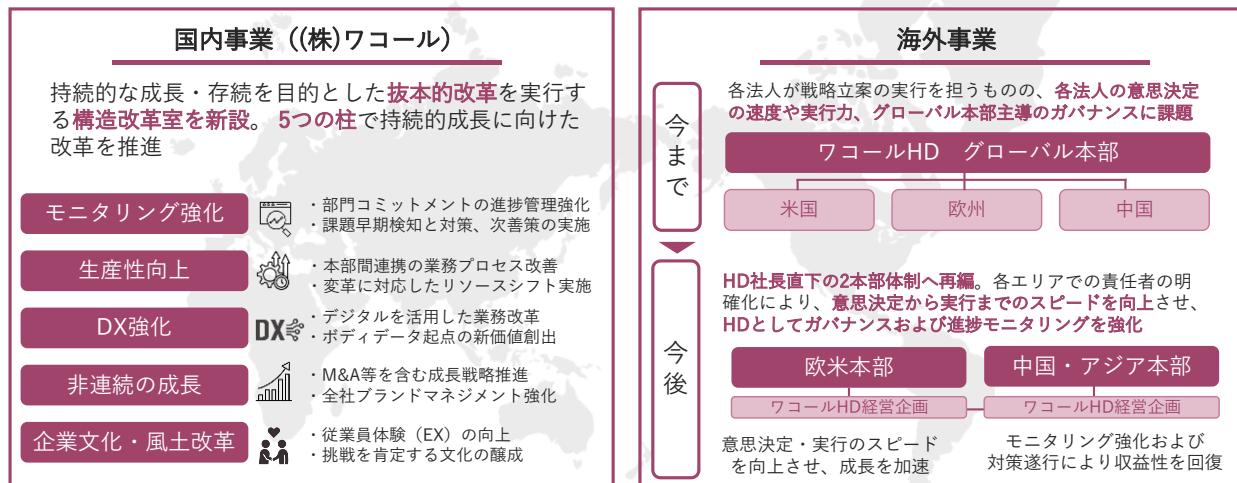


こちらは、2026年3月期 第2四半期決算資料からの再掲となります。

2025年11月開示した連結業績予想の修正を踏まえ、従来の前提に基づく計画では実効性や信頼性を担保できないと判断し、2025年12月に予定していた次期中期経営計画の公表を延期することとしました。現在、企業価値向上に資する中長期戦略の再構築のため、計画への未達要因の徹底的な振り返り、市場環境や自社の事業構造の多角的な分析、そして外部の知見も活用しながら、実効性・信頼性の高い施策の検討に取り組んでいます。

## 来期組織体制 (2026年4月より)

次期中計策定に向けて改革の土台となる組織体制を刷新予定  
実効力の伴った成長戦略の策定及び構造改革加速に向けて歩を進める



22

次期中期経営計画の策定に向けて、まずは改革を確実にやり切るため、組織体制の刷新を予定しています。

新たな組織体制のもと、実効性のある成長戦略の策定と、構造改革のさらなる前進を図っていきます。具体的には、左側、国内事業の中核会社である株式会社ワコールでは、持続的な成長と将来にわたる企業価値の向上を目的として、抜本的な改革を担う「構造改革室」を新たに設置します。この組織を中核に、記載の5つの柱を軸とした改革を推進し、持続的な成長・存続に向けた基盤づくりを着実に進めています。

また、右側、海外事業についても組織体制を刷新します。これまで各海外法人が戦略の立案から実行までを担い、ホールディングスグローバル本部がそれを管理してきましたが、意思決定のスピードや実行力、またグローバル本部としてのガバナンス体制に課題がありました。その反省を踏まえ、ホールディングス社長直下に欧米本部と中国・アジア本部を設置し、現在のグローバル本部を2本部体制に再編します。各エリアの責任の所在を明確にし、意思決定から実行までのスピードを上げると同時に、ホールディングスとして全体のガバナンスと進捗管理を強化していきます。

わたくしからの説明は以上です。

# Appendix

23

## 26/3期 3Q 決算概況

WACOAL HOLDINGS CORP.

(単位：百万円)

為替レート	1\$	1£	1元
25/3期 3Q実績	152.57	195.43	21.15
26/3期 3Q実績	148.74	198.95	20.78

	25/3期 3Q実績	売上比	26/3期 3Q実績	売上比	対前年同期	
					増減額	増減率
売上収益	133,534	—	130,344	—	-3,190	-2.4%
売上原価	58,041	43.5	55,219	42.4	-2,822	-4.9%
売上総利益	75,493	56.5	75,125	57.6	-368	-0.5%
販売費及び一般管理費	74,009	55.4	72,007	55.2	-2,002	-2.7%
事業利益	1,484	1.1	3,118	2.4	+1,634	+110.1%
その他の収益	10,806	8.1	21,452	16.5	+10,646	+98.5%
その他の費用	1,174	0.9	1,897	1.5	+723	+61.6%
営業利益	11,116	8.3	22,673	17.4	+11,557	+104.0%
金融収益	1,775	1.3	1,796	1.4	+21	+1.2%
金融費用	404	0.3	566	0.4	+162	+40.1%
持分法による投資利益（損失）	661	0.5	-1,787	—	-2,448	—
税引前利益	13,148	9.8	22,116	17.0	+8,968	+68.2%
親会社の所有者に帰属する当期利益	9,127	6.8	13,791	10.6	+4,664	+51.1%

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

24

## 26/3期 3Q 決算概況 (セグメント別)

(単位：百万円)

為替レート	1\$	1£	1元
25/3期 3Q実績	152.57	195.43	21.15
26/3期 3Q実績	148.74	198.95	20.78

	25/3期 3Q実績	構成比	26/3期 3Q実績	構成比	対前年同期	
					増減額	増減率
ワコール事業 (国内)	68,764	51.5	68,472	52.5	-292	-0.4%
ワコール事業 (海外)	50,001	37.4	50,004	38.4	+3	+0.0%
ビーチ・ジョン事業	7,846	5.9	8,399	6.4	+553	+7.0%
その他	6,923	5.2	3,469	2.7	-3,454	-49.9%
売上収益	133,534	100.0	130,344	100.0	-3,190	-2.4%
	25/3期 3Q実績	売上比	26/3期 3Q実績	売上比	増減額	増減率
ワコール事業 (国内)	-254	-0.4	2,647	3.9	+2,901	—
ワコール事業 (海外)	1,541	3.1	104	0.2	-1,437	-93.3%
ビーチ・ジョン事業	33	0.4	144	1.7	+111	+336.4%
その他	164	2.4	223	6.4	+59	+36.0%
事業利益 (損失)	1,484	1.1	3,118	2.4	+1,634	+110.1%
	25/3期 3Q実績	売上比	26/3期 3Q実績	売上比	増減額	増減率
ワコール事業 (国内)	9,231	13.4	21,659	31.6	+12,428	+134.6%
ワコール事業 (海外)	1,576	3.2	327	0.7	-1,249	-79.3%
ビーチ・ジョン事業	23	0.3	141	1.7	+118	+513.0%
その他	286	4.1	546	15.7	+260	+90.9%
営業利益	11,116	8.3	22,673	17.4	+11,557	+104.0%

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

25

## 26/3期 3Q 決算概況 (主要子会社)

(単位：百万円)

為替レート	1\$	1£	1元
25/3期 3Q実績	152.57	195.43	21.15
26/3期 3Q実績	148.74	198.95	20.78

	売上収益			事業利益 (損失)			営業利益 (損失)		
	25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	対前年同期 増減額	25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	対前年同期 増減額	25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	対前年同期 増減額
ワコール	64,550	64,885	+335	+0.5%	-47	2,390	+2,437	—	
ワコール インターナショナル	19,561	17,158	-2,403	-12.3%	891	97	-794	-89.1%	900
ワコール ヨーロッパ	17,452	22,147	+4,695	+26.9%	502	268	-234	-46.6%	302
中国ワコール	6,799	5,410	-1,389	-20.4%	-471	-674	-203	—	-447
ビーチ・ジョン (連結)	7,846	8,399	+553	+7.0%	33	144	+111	+336.4%	23
A i	2,417	2,419	+2	+0.1%	169	141	-28	-16.6%	170

【海外主要子会社】 (現地通貨ベース) (単位 米国：千US\$ ヨーロッパ：千£ 中国：千元)

ワコール インターナショナル	128,208	115,356	-12,852	-10.0%	5,832	651	-5,181	-88.8%	5,894	779	-5,115	-86.8%
ワコール ヨーロッパ	89,300	111,318	+22,018	+24.7%	3,335	1,387	-1,948	-58.4%	2,308	1,248	-1,060	-45.9%
中国ワコール	321,467	260,342	-61,125	-19.0%	-22,256	-32,386	-10,130	—	-21,139	-31,347	-10,208	—

※ 原則、各国現地会計基準にて表示

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期第3四半期の数値を遡及修正

26

## 26/3期 通期計画

(単位：百万円)

為替レート	1 \$	1 £	1元
26/3期 修正計画	150.00	200.00	21.00
25/3期 実績	152.57	195.43	21.15

	25/3期 実績	売上比	26/3期 修正計画	売上比	対前年同期	
					増減額	増減率
売上収益	173,896	—	173,800	—	-96	-0.1%
売上原価	76,452	44.0	72,500	41.7	-3,952	-5.2%
売上総利益	97,444	56.0	101,300	58.3	+3,856	+4.0%
販売費及び一般管理費	100,881	58.0	102,800	59.1	+1,919	+1.9%
事業利益	-3,437	—	-1,500	—	+1,937	—
その他の収益	11,211	6.4	23,950	13.8	+12,739	+113.6%
その他の費用	4,486	2.6	2,250	1.3	-2,236	-49.8%
営業利益	3,288	1.9	20,200	11.6	+16,912	+514.4%
金融収益	2,170	1.2	1,850	1.1	-320	-14.7%
金融費用	591	0.3	780	0.4	+189	+32.0%
持分法による投資利益（損失）	813	0.5	-1,870	—	-2,683	—
税引前利益	5,680	3.3	19,400	11.2	+13,720	+241.5%
親会社の所有者に帰属する当期利益	7,218	4.2	12,200	7.0	+4,982	+69.0%

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期の数値を遡及修正

27

## 26/3期 通期計画（セグメント別）

(単位：百万円)

為替レート	1 \$	1 £	1元
26/3期 修正計画	150.00	200.00	21.00
25/3期 実績	152.57	195.43	21.15

	25/3期 実績	構成比	26/3期 修正計画	構成比	増減額		
					増減額	増減率	
ワコール事業（国内）	87,828	50.5	87,900	50.6	+72	+0.1%	
ワコール事業（海外）	67,237	38.7	70,300	40.4	+3,063	+4.6%	
ビーチ・ジョン事業	10,469	6.0	11,500	6.6	+1,031	+9.8%	
その他	8,362	4.8	4,100	2.4	-4,262	-51.0%	
売上収益	173,896	100.0	173,800	100.0	-96	-0.1%	
	25/3期 実績	売上比	26/3期 修正計画	売上比	増減額	増減率	
	ワコール事業（国内）	-4,777	—	-1,400	—	+3,377	—
	ワコール事業（海外）	1,480	2.2	-500	—	-1,980	—
	ビーチ・ジョン事業	-194	—	300	2.6	+494	—
	その他	54	0.6	100	2.4	+46	+85.2%
事業利益（損失）	-3,437	—	-1,500	—	+1,937	—	
	25/3期 実績	売上比	26/3期 修正計画	売上比	増減額	増減率	
	ワコール事業（国内）	2,970	3.4	18,700	21.3	+15,730	+529.6%
	ワコール事業（海外）	419	0.6	800	1.1	+381	+90.9%
	ビーチ・ジョン事業	-266	—	280	2.4	+546	—
	その他	165	2.0	420	10.2	+255	+154.5%
営業利益（損失）	3,288	1.9	20,200	11.6	+16,912	+514.4%	

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期の数値を遡及修正

28

## 26/3期 通期計画（主要子会社）

(単位：百万円)

為替レート	1\$	1£	1元
26/3期 修正計画	150.00	200.00	21.00
25/3期 実績	152.57	195.43	21.15

	売上収益				事業利益（損失）				営業利益（損失）						
	25/3期 実績	26/3期 修正計画		対前年同期		25/3期 実績	26/3期 修正計画		対前年同期		25/3期 実績	26/3期 修正計画		対前年同期	
		増減額	増減率	増減額	増減率		増減額	増減率	増減額	増減率		増減額	増減率		
ワコール	82,369	82,937	+568	+0.7%	-2,542	630	+3,172	-	6,180	18,572	+12,392	+200.5%			
ワコール インターナショナル	24,917	23,829	-1,088	-4.4%	675	-450	-1,125	-	681	-449	-1,130	-			
ワコール ヨーロッパ	25,201	30,991	+5,790	+23.0%	1,124	963	-161	-14.3%	857	1,983	+1,126	+131.4%			
中国ワコール	9,085	8,377	-708	-7.8%	-736	-902	-166	-	-1,844	-893	+951	-			
ピーチ・ジョン (連結)	10,469	11,500	+1,031	+9.8%	-194	300	+494	-	-266	280	+546	-			
A.i	2,862	2,865	+3	+0.1%	122	80	-42	-34.4%	121	80	-41	-33.9%			

【海外主要子会社】 (現地通貨ベース) (単位 米国：千US\$ ヨーロッパ：千£ 中国：千元)

ワコール インターナショナル	163,305	158,863	-4,442	-2.7%	4,435	-3,000	-7,435	-	4,466	-2,990	-7,456	-
ワコール ヨーロッパ	129,493	154,955	+25,462	+19.7%	5,772	4,815	-957	-16.6%	4,399	9,915	+5,516	+125.4%
中国ワコール	430,546	398,917	-31,629	-7.3%	-34,834	-42,921	-8,087	-	-87,367	-42,496	+44,871	-

※ 原則、各国現地会計基準にて表示

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことに伴い、2025年3月期の数値を遡及修正

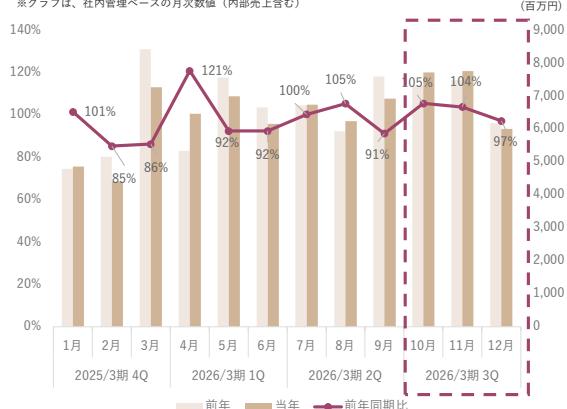
29

## 国内主要子会社の売上月次推移

## (株) ワコール

3Q期間:前年同期比102% ▲3Q累計:前年同期比100% ▶

※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）



2025年10月 前年▲○ 自社EC、他社ECとも好調 ○実店舗堅調  
 2025年11月 前年▲○ 他社EC大型販促の実施期間前倒しで大幅伸長  
 2025年12月 前年▼△ 他社EC前月の反動 ×実店舗低調

## (株) ピーチ・ジョン

3Q期間:前年同期比107% ▲3Q累計:前年同期比109% ▶

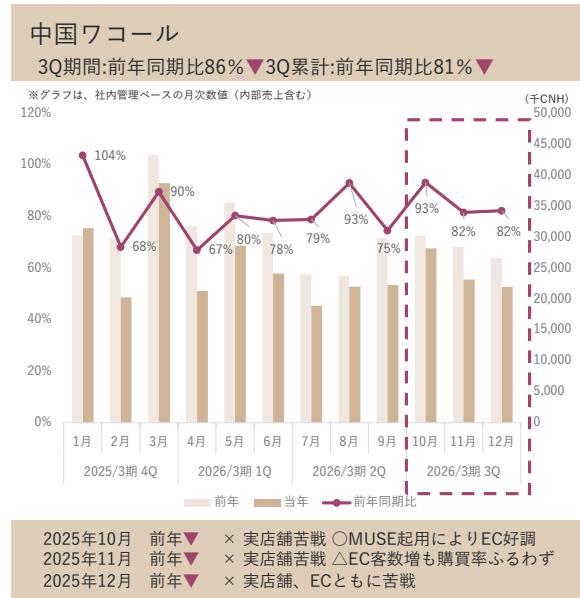
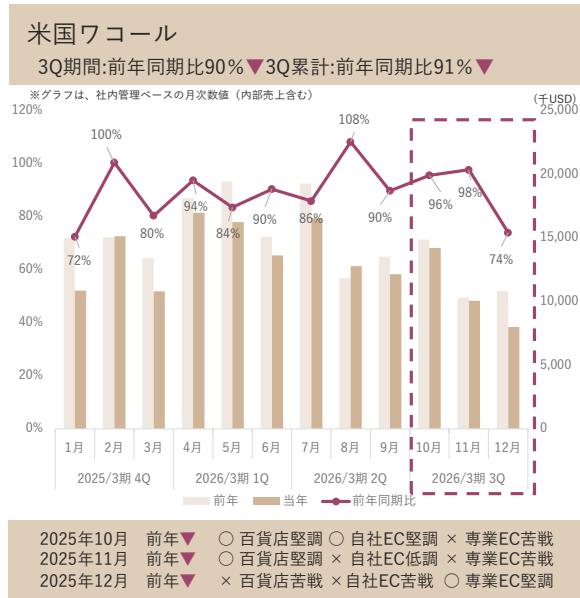
※グラフは、社内管理ベースの月次数値（内部売上含む）



2025年10月 前年▲ ○人気タレント起用等により EC好調  
 2025年11月 前年▲ ○ EC、実店舗とも好調  
 2025年12月 前年▲ ○ EC好調 △実店舗堅調（既存店は前期超え）

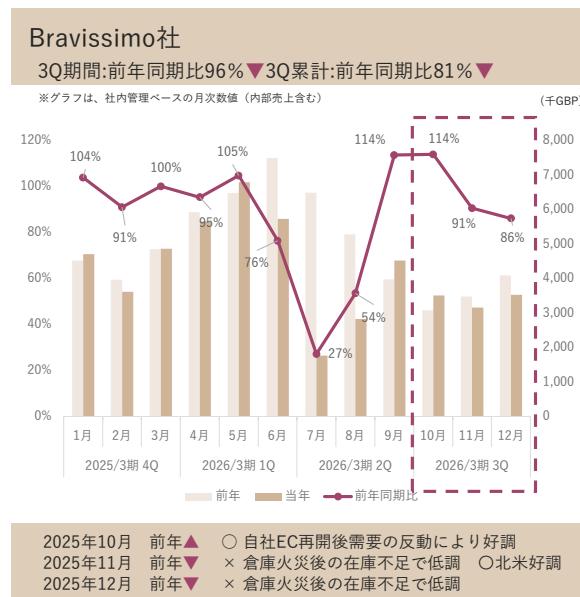
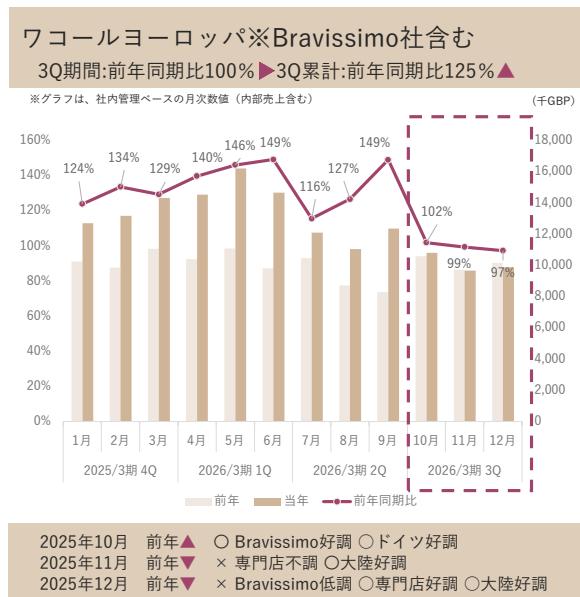
30

## 海外主要子会社の売上月次推移①



31

## 海外主要子会社の売上月次推移②



32

## 連結財政状態計算書 (BS)

(単位：億円)					
	2025年3月末	構成比	2025年12月末	構成比	増減
現金及び現金同等物	234		① 366		+132
営業債権及びその他の債権	168		173		+5
棚卸資産	502		508		+6
その他	95		86		-9
流動資産合計	999	36.6%	1,133	39.2%	+134
有形固定資産・無形資産・使用権資産	680		② 580		-100
のれん	152		166		+14
その他の金融資産	420		③ 537		+117
その他	477		474		-3
非流動資産 計	1,729	63.4%	1,757	60.8%	+28
資産合計	2,727		2,890		+163
	2025年3月末	構成比	2025年12月末	構成比	増減
営業債務及びその他の債務（買掛債務）	158		128		-30
借入金	145		127		-18
リース負債	126		113		-13
繰延税金負債	142		④ 206		+64
その他	205		234		+29
負債 計	776	28.5%	808	27.9%	+32
親会社の所有者に帰属する持分合計	1,920		⑤ 2,053		+133
非支配持分	31		29		-2
資本 計	1,951	71.5%	2,082	72.1%	+131
負債及び資本 合計	2,727		2,890		+163

※ 2026年3月期第2四半期に企業結合の会計処理を確定したことにより、2025年3月期の数値を遡及修正

33

## (参考) 成長投資・減価償却費・政策保有株式売却状況

## ■リバイズ期間の成長投資

成長投資の内訳	24/3期 実績	25/3期 実績	26/3期 3Q実績
ワコール / IT関連※1	12億円	10億円	5億円
ワコール / 直営店・建物関連※1	3億円	8億円	18億円
国内子会社関連※1	8億円	10億円	3億円
海外・子会社関連※1	11億円	11億円	8億円
Bravissimo社の株式取得に係る投資額	—	約90億円	—
合計	約34億円	約129億円	約34億円

※1 設備投資額

## ■リバイズ期間の減価償却費

	24/3期 実績	25/3期 実績	26/3期 3Q実績
減価償却費※2	約62億円	約61億円	約45億円

※2 減価償却費から、リース負債の返済による支出額をネット

## ■リバイズ期間の政策保有株式の売却状況

	24/3期 実績	25/3期 実績	26/3期 3Q実績
完全売却銘柄数	10	5	3

34

## (参考) ワコールのブランド展開 (国内)

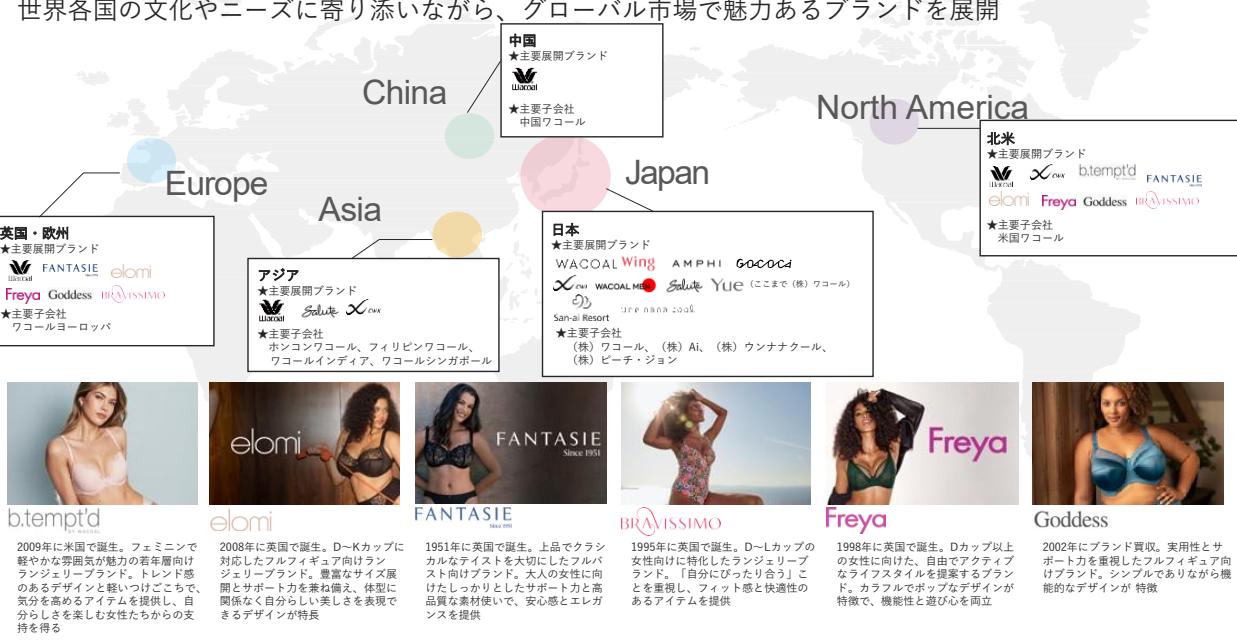
中核子会社である(株)ワコールでは徹底した「顧客起点」のブランドマネジメントを推進し、提供価値が明確な魅力あふれるブランドの育成を目指す。現在、レディスインナーウェアを中心に12のブランドを展開



35

## (参考) ワコールのブランド展開 (海外)

世界各国の文化やニーズに寄り添いながら、グローバル市場で魅力あるブランドを展開



36

## ディスクレーマー

この資料に掲載されている情報のうち、将来の業績に関する見通しについては、本資料の作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、その実現・達成を保証又は約束するものではありません。また今後、予告なしに変更されることがあります。

これらの情報の掲載にあたっては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りに関して、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

### IRお問い合わせ先

株式会社ワコールホールディングス

IRサイト：<https://www.wacoalholdings.jp/ir/>  
お問合せ先：ir-wmg@wacoal.co.jp

### IR情報の発信



株式会社ワコールホールディングスIR・広報  
[https://x.com/Wacoal\\_IR\\_PR](https://x.com/Wacoal_IR_PR)



株式会社ワコールホールディングスIR  
[https://note.com/wacoal\\_ir](https://note.com/wacoal_ir)